

子育てのココが聞きたい！ VOL. 8

東秩父中学校では4月からブレザー型の制服を導入しました。スラックスまたはスカートでも着用することが出来ますし、今までの制服も着用可能となっています。

田端校長にお話をうかがい、この制服の導入には、生徒の主体的な行動と先生方の生徒を思う気持ち詰まっていることがわかりました。

田端校長は「生徒から女子の制服にスラックスを加えて欲しいと要望は、昨年度にはあったということですが、ここ数年教職員の間でも「多様な性への対応」は課題となっており、昨年7月には小中合同で職員研修会を行っています。講師によると「LGBTの人の割合は約10%で、左利きの人の割合とほぼ同じ」とのこと。そういった背景もあり、本校では表現の自由を含めた人権教育と生徒会活動の一環として、導入することにしました。



全学年の生徒を対象に養護教諭による「性の多様性について」の授業を行い、「ふたつのナイ（広めナイ・決めつけナイ）」など、最低限守らなければならぬマナーについても学習しました。制服を導入する前に「性の多様性」への「理解」を深めておかなければ、着用する人に対する偏見を生むことも懸念されたからと話してくれました。

先生、生徒共に十分に理解を深めた後に、生徒会が中心となり臨時生徒総会でブレザー型制服の導入を提案し、満場一致で可決されました。

生徒会の皆さんは「今の時代では多様性が認められていて、男がスカート履いてもいいし、女がズボン履いてもいい。そんな世の中がとても良いと思います。ずっと同じ制服だったのを変えるのは勇気がいるけど、スラックスを履きたい等沢山の意見を聞き、実現させたいと思いました」と話していました。

新年度、各々が選んだ制服を着た生徒たちが、新鮮な雰囲気の中学校生活を始めています。

現在では職種を性別によって区別することがなくなりました。例えば保育士は過去に「保育母」と呼ばれ、保育資格証明書が交付されていました。しかし保母から保育士へ名称が変わ



「性の多様性について」の授業の様子

り、男女区別しないことが当たり前の職業になりました。これからは仕事だけでなく、色や服装、立居振る舞いまで、「自分が認める自分らしさ」を自由に表現していくようになっていくのでしょうか。

田端校長のコメント

生徒たちには、この貴重な経験を生かし、これからの多様性を互いに認め合う共生社会、自分たちの理想とする社会を築いてほしいと願っています。



チェックを取り入れたデザインがお気に入りです。スラックスは冬でも暖かくて、着心地が抜群！